# ５［評論］『人は見た目が９割』

　ノンバーバル・コミュニケーションという研究ａリョウイキは、主にアメリカで発達している。それは彼らにとって、ノンバーバル・コミュニケーションが大切だからである。アメリカ人は、をするとき握手を大事にする。愛情表現のキスを忘れない。驚いた時には、ことさら両手を広げ、自分の感情を人に伝えようとする。①これらの工夫は、言葉より伝達威力の大きな表現をも動員して、「より伝えよう」とする意思の表れである。

　アメリカでは、コミュニケーションの工夫をする教養のある人は、身振り手振りというノンバーバル・コミュニケーションをｂタヨウすることになる。とりわけ公の場では、その方が訴えが明確になるからだ。

　②ところが日本人のノンバーバル・コミュニケーションは、そもそもの発想が異なる。

　その根本原理は、中世の天才能楽師・が全てをいい当てている。「秘すれば花」なのである。Ａは本当のことを言葉では語らない。Ｂは「Ａが伝えたいであろうことを察する」。その両者の気持ちが通じ合ったときに、「深くわれた」と満足する。

　日本には、動きを考える上でｃタイショウ的な芸能がある。「能」と「」である。

　武家階級に愛された「能」は、動きが刈り込まれ、表現が研ぎ澄まされている。「小さな変化」に大きな世界を感じ取るのが③見巧者である。

　逆に、庶民文化のｄハナである「歌舞伎」は、一般に表現が大きい。能に比べると、ｅヤクソク事が少ないため、教育程度の低い庶民にもわかるように作られている。④受け手に知性を要求しない様式をとった、と言い換えてもよい。

　⑤芸能という尺度で見ると、日本人のコミュニケーションは次のように考えられる。「言葉を交わさなくても、目と目が合えば理解しあえる」のは文化程度の高い人同士、「多くの言葉を要し、身振り手振りがないと理解しあえない」のは文化程度の低い人同士のコミュニケーションである、と。

　［　　　　　］、以上は芸能の「動き」に限定した一般論に過ぎない。能ファンと歌舞伎ファンの知性の話とは、全く異なるものである。歌舞伎ファンの方を低く見ているわけではないので、念のため。

●語注

ノンバーバル・コミュニケーション＝身振りや手振りなど、言葉を使わないコミュニケーション（言語以外の伝達）。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　傍線部①の「工夫」の具体例を本文から三つ探して答えよ。3点×3

１〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

２〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

３〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問２　傍線部②とあるが、ノンバーバル・コミュニケーションについてのアメリカ人の発想と日本人の発想とを、それぞれ説明せよ。6点×2

日本＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

アメリカ＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　傍線部③の語句の意味を答えよ。5点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　傍線部④とは、具体的にはどのようなことか。本文中の表現を用いて二点答えよ。4点×2

１〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

２〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部⑤の意味の説明として最も適当なものを次から選ベ。5点

ア　その芸能の与える感動の質から考えると

イ　その芸能の人気の程度から考えると

ウ　その芸能の主な受け手の知性から考えると

エ　その芸能の社会的位置づけから考えると

オ　その芸能の表現様式の特徴から考えると

〔　　　〕

問６　本文中の空欄に入る最も適当な語句を次から選ベ。4点

ア　そして　　　イ　もちろん　　ウ　だから　　エ　すなわち　　オ　むしろ

〔　　　〕

問７　本文の内容の説明として最も適当なものを次から選ベ。7点

ア　芸能のファンには程度の高低の差はないが、芸能全般には程度の差が存在する。

イ　日本人から見ると、アメリカ人のコミュニケーションは文化程度が低いものに見える。

ウ　ノンバーバル・コミュニケーションの研究は、日本では軽視されている。

エ　アメリカでは、伝達の工夫としてノンバーバル・コミュニケーションが多用されている。

オ　日本人は本音を語らず、ノンバーバル・コミュニケーションの伝達威力によって伝える。

【解答】

漢字　ａ領域　ｂ多用　ｃ対照　ｄ華　ｅ約束

問１　１挨拶での握手を大事にする。

　　　２愛情表現のキスを忘れない。

　　　３両手を広げて驚きの感情を伝える。

問２　日本＝本当のことは言葉で語らず、（かすかな仕草に表れる）伝えたいであろうことを察し合おうとする。

　　　アメリカ＝言葉よりさらに伝達威力の大きな表現をも動員して自分の意思を伝えようとする。

　　　（傍線部の内容がなければ×）

問３　見方の上手な者（こと）。

問４　１表現が大きいこと。

　　　２約束事が少ないこと。

問５　オ

問６　イ

問７　エ

■覚えておきたい語句

□17　尺度…判断・評価などの基準。

〔要　約〕

［3］段落…ノンバーバル・コミュニケーションの考えが、アメリカと日本では対照的である。

［1］段落…アメリカ人の考え

［4］・［8］段落 …日本人の考え

　よって、1、3、4、8段落を中心に要約をする。

　　　　↓

ノンバーバル・コミュニケーションは、アメリカでは言葉を明確に伝えるために用い、日本では、言葉であからさまに伝えないために用いる。日本人は「言葉を交わさなくとも理解しあえる」ことを文化程度の高さとする。（100字）

〈筆者＆出典〉竹内一郎（たけうち・いちろう）一九五六年（昭和31）福岡県生まれ。「さいふうめい」の筆名で演出家、劇作家、漫画原作者、ギャンブル評論家としても活躍。『戯曲 星に願いを』、漫画原作『哲也─雀聖と呼ばれた男』など。

本文は、『人は見た目が9割』（新潮新書、二○○五年）より。

【読みのセオリー】

★対比を読み取る

　評論文は、ある事柄をよりわかりやすく述べるために、それと相反する事柄と比較対照することが多い。

　対比は、二つの事柄を並列的に述べるように見せて、実はどちらかに重点を置いている場合が多い。その点にも注意して対比を読み取ろう。

■読みのセオリー［実践］対比を読み取る

問2　日本とアメリカの「ノンバーバルコミュニケーション」について、それぞれどの段落で述べられているか。

日本人の発想

［１　　　］・［２　　　］段落

アメリカ人の発想

［３　　　］・［４　　　］段落

　では、この文章はどちらに重点を置いているだろうか。

この文章は、［５　　　　］の発想に 重点を置いている。

〔解答〕　１［4］　２［8］　３［1］　４［2］　５日本人

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊新問

問８　次のア〜エの各項について、アメリカ人の特徴を述べているものにＡ、日本人の特徴を述べているものにＢと書け。

ア　大きな身振り手振りで、言葉による伝達を補おうとする。

イ　相手から伝えられないことまで察することが求められる。

ウ　言葉によらなくても理解しあえることが文化程度の高さとされる。

エ　はっきりと意思を伝えることが教養ある態度とされる。

［答］　ア・Ａ　　イ・Ｂ　　ウ・Ｂ　　エ・Ａ

＊新問

問９　「能」と「歌舞伎」のそれぞれの特徴を、両者を対比させて説明せよ。

［答］　能は武士階級に愛され、小さな変化を見る知性が求められた。歌舞伎は一般庶民の文化で、表現が大きく約束事が少ないので、受け手に知性を要求しない。

＊新問

問10　８行目「秘すれば花」の一節がある、世阿弥の残した能の理論書は何か。

［答］　『風姿花伝』